

論文番号 59

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Testosterone Concentrations in Women Aged 25-50 Years: Associations with Lifestyle, Body Composition, and Ovarian Status

25-50歳の女性におけるテストステロン濃度：ライフスタイル、体格因子、および卵巣状態との関連

執筆者

MF Sowers, JL Beebe, D McConnell, J Randolph, M Jannausch

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001; 153:256-64.

キーワード

Alcohol drinking, body composition, body mass index, hysterectomy, smoking, testosterone
要旨

妊産婦の健康と慢性疾患における内因性、外因性のエストロゲンの重要性については、多くの研究結果があるが、女性の健康におけるアンドロゲンの問題については、ほとんど研究がない。著者らは、25歳から50歳の閉経前後の女性611人を対象として、コホート研究の3時点における血中テストステロンと体格因子（肥満、体脂肪、lean body mass index）、喫煙、飲酒等との関連を検討した。その結果、喫煙と体格因子は血中テストステロン濃度と正の関連を有していたが、飲酒習慣、身体活動度、主要栄養素摂取量との関連は認めなかった。卵巣摘出を伴った子宮摘出を行った人は有意にテストステロン濃度が低かった。これは、女性の健康でアンドロゲンの役割に関して、成長の予測因子としてテストステロン濃度が関係することを示した最初の研究である。太った女性や喫煙女性に肥満や喫煙がテストステロン濃度によって、循環器疾患を含む病気の経過に影響を与えるという示唆を与えるものである。